

そわにえ Soigner

第7号

『Soigner (ソワニエ)』とは、
「世話をする・手当てする」という意味の
フランス語です。

2006年10月15日発行



発行/東京訪問看護ステーション協議会 (責任者 森山弘子)
〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町4-17
社団法人東京都看護協会内
TEL : 03-5229-1534・1520 / FAX : 03-5229-1524

INDEX/

- さんぼみち……………① ステーション紹介…⑤
- 医療施設説明会……………② みんなで考えよう…⑥
- 学会に行こう……………③ 委員会報告……………⑦
- 研修委員会より……………④ 編集後記他……………⑧



『志木・平林寺の紅葉』 練馬区 磯村豊三さん撮影

この協議会の顧問で、東京都医師会長の鈴木先生にお会いし、医師会活動の現状や訪問看護師たちへの要望、メッセージを伺いました。また、私たちの現場の声もお話ししてきましたので、その中身をご紹介します。

鈴木会長からのお話。

- ・今後、在宅医療がすすむ中で、必然的に認知症の高齢者も増えていくので、医師会としても今、認知症サポート医を養成している。
- ・終末期医療に対しても一般医へ浸透させていく活動をしている。
- ・介護予防も視野にいれ、これからの在宅ケアの医療を、私たちと手を取り合って担っていきたい。
- ・在宅療養支援診療所については、本当に制度通りの動きが始まるのはこれからであり、現実的にはまだ体制として解決できない問題が今後の在宅医療の課題になっていくであろう。

また、私たちからの要望として、『訪問看護の対象者は実は高齢者ばかりでなく、小児、若年の障害者、精神障害の方など多岐にわたっている。しかし、現制度では訪問看護の提供の場が在宅に限り、小児や若年者施設への訪問には報酬が



東京都医師会長 鈴木聡男先生とお会いして



つかない。通所療養介護も決められた対象者しか報酬は保険で認められず、24時間在宅で家族の医療処置に追われる介護者のためのレスパイトのお手伝いが出来ない。地域におけるノーマライゼーションの観点から、私たちの活動の場が施設、学校などまで広げられる事を切望している。』旨をお話しました。

これには鈴木先生も学校医の協議会で訪問看護ステーションの役割などもっと、アピールして下さると話して戴きました。高齢化社会が加速するなか、家族や制度だけでは高齢者を支えきれなくなります。これから最も必要とされるものは「地域力」です。「行政」だけでも「医療」だけでも「福祉」だけでもなく、これらがうまく協同し合って地域に解

け込み、「地域力を高める」には、まさに私たちが適任者であるのご意見を頂きました。

医師と看護師は不朽のパートナーです。時代のニーズにあった医療を提供していけるよう今後も支援し続ける約束をして下さいました。鈴木会長には、お忙しい中お時間を戴いた事を感謝致します。ありがとうございました。

8月25日 東京都医師会館にて(レポート: 広報委員 天木・椎名)